

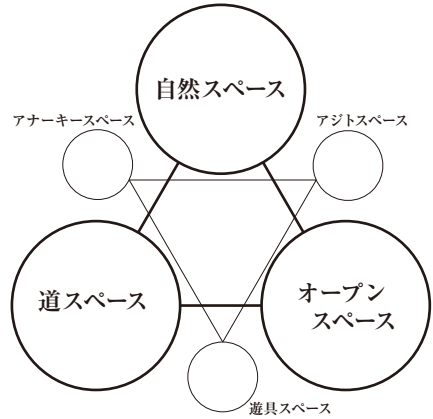
# か

## 環境が 人つくるよね では環境は？

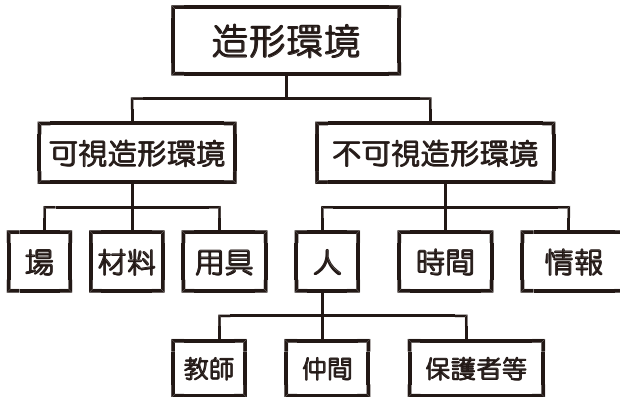
Keyword: 造形 (美術) 環境<sup>\*2</sup>, 可視造形環境, 不可視造形環境

教育環境をつくるのは教師等の最優先の仕事です。美術教育の成否はどんな造形環境を提供できるかにかかっているとんでも過言ではありません。かつて子どもの遊びと環境に関する仙田氏の知見から造形遊びにかかわる多くのヒントを得、その際、「六原空間」

仙田の知見「学びあり」と詠みました。以後、「遊び」を核に保育内容を組織される保育所・幼稚園の先生方には当然ながら仙田氏の「子どもと環境<sup>\*3</sup>」をお薦めして参りました。私は「環境が人をつくる」をベースに「環境（教育環境）は人（教師）がつくる」の持論と“六つの原空間”をベースに美術教育における“造形環境”<sup>\*4</sup>を以下の通り整理しました。



六つの原空間／仙田 満



たとえば先生が巧みに絵をかけなくてもいいのです。あるいは要領よくものをつくることができなくてかまいません。大切なのはしっかり教材研究を積み上げ子どもたちの実態をふまえ、いま、目の前に居る子どもたちの必要に応じた“造形環境”を提供できる力です。手取り足取り口を出さず指導・支援など「小さな親切大きなお世話」であり、子どもたちを萎縮させかねない最低レベルの指導のあり方です。

\*2 従前は「造形環境」として訴えてきました。が、今後は「美術環境」と修正していきたい考えてます。

\*3 仙田 満「子どもと環境」岩波書店

\*4 若元澄男編「図画工作・美術科重要用語300の基礎知識」, 2000, 明治図書, PP.200-206